

は可能な範囲での回答になったため、項目ごとに回答率は異なっている。

売上高については21駅中13駅から回答が得られた。平成22年度で売上高が最も大きい駅で20億8千万円、最小のもので2億5千万円であった。売上高を入込客数で除して平均の客単価に換算すると平均値は712円、最大で1276円、最小で62円となった。JAFのアンケート調査によると³⁾食事・買い物を目的とする利用者は全体の約46%であり、これを考えると712円という値は決して小さくないと考えられる。

次に、従業者数は3人で運営する駅から190人も従業員がいる駅まで様々であった。また、その男女比に着目するとほぼ全ての駅で女性従業者が男性従業者の数を上回っていた。比率は男性対女性で1:3程度となり、道の駅では主に女性が活躍している。従業員の年齢構成については50年代前後が中心となっていた。なかには70代以上が従業者の中心となる駅もあり、主に中高年を中心として運営されていることがわかる。従業員の居住地については同一市町村、同一町丁内、同一県内の順に多い結果となった。

地元住民の利用状況については、利用が多いと感じるかについて、「思う」「やや思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」の5項目から選択式で調査を行った。その結果、8割の駅が地元の利用が比較的多いと考えていることがわかった。その際に利用されるのが、直売所やレストラン、手作りの弁当や総菜、温泉施設等であり、これは道の駅で人気のある、あるいは力を入れているコーナーと一致していた。

運営主体は、第三セクターが主であり11社、企業組合等が2社、民営が2社であった。

道の駅に設置されている施設を245駅について市販の道の駅案内書等で整理した結果、図-2に示した通り、販売施設及び飲食施設はほとんどの駅で設置されており、公園、体験施設等多様な施設が設置されてい

る。基本的には外部の旅行者を対象にした施設と考えられるものが多いがアンケート結果から見る通り実態として地元利用者も多いと考えられる。

4. まとめ

今回の研究によって22府県の245駅の入りこみ客数のデータを得ることができた。これらの道の駅については、基本的に面する道路の交通量が多い道の駅で入り込み客数が多いが、交通量が多くないにも拘わらず入り込み客数が多い道の駅も見られる。

入り込み客数の多い駅等へのアンケート調査の結果からは、

①従業者数は3人で運営する駅から、190人も従業員がいる駅まで様々であり、その男女比と年齢に着目すると、道の駅では主に女性が活躍しており、中高年を中心として運営されている。従業員の居住地については同一市町村、同一町丁内、同一県内の順に多い。

②地元住民の拠点という観点に関しては、調査対象の8割の道の駅において地元住民の利用が多く感じられると回答しており、所在地域との結びつきが強く、その際の利用は道の駅の魅力である直売所やレストラン、加工特産品のコーナーに利用が集中することが分かった。

③道の駅の施設としては、外部の旅行者のための直売所、休憩施設、体験施設等を中心として多様であるが、直売所、レストラン等は地元住民に多く利用されているようであり、一見旅行者向けの施設とみられるものも地域の拠点としての役割が大きいことも多いと考えられる。

謝辞

本研究のデータの収集分析は、榊原建人氏の作業・成果によっています。本来であれば共同執筆者とすべきところですが、土木学会会員でないため、ここに記して感謝いたします。

参考文献

- 1) 特集集落地域における「小さな拠点」づくり，人と国土 21 第 39 巻第 2 号 2013
- 2) 特集休憩施設道の駅オープンスペース，交通工学 2013Vol.48No.2，交通工学研究会，2009.4
- 3) 平成22年JAF「道の駅に関するアンケート結果集計」

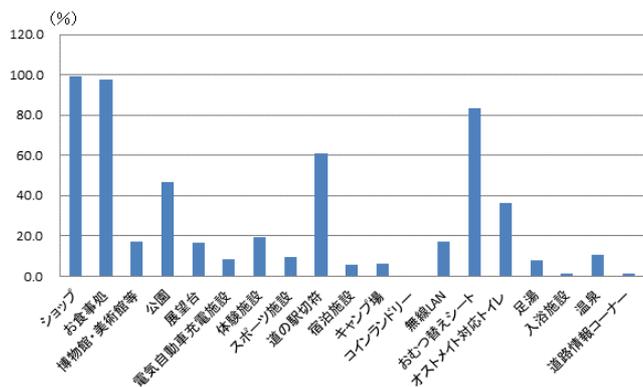


図-2 道の駅の施設別設置割合